

脳神経外科 助教
角 拓真

「患者さんのお考えや、ご家族の思いを大切に、最も適切な治療をご提案できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。野球、ラグビー、ゴルフなどスポーツ好きですが、休日は子どもたち(3姉妹)を公園に連れて行くのが私の役目。大変ですが可愛いので疲れも吹き飛びます」



脳神経外科 助教
森永 裕介

「頭痛や経鼻内視鏡手術の適応などトータルに診察いたします。下垂体卒中を含む下垂体腺腫でお困りの際は、ぜひ当院にご紹介いただくと幸いです。昨年から栃木暮らしが始まり、大谷資料館や南ヶ丘牧場に遊びに行ってきました。これからも家族といろいろと街歩きを楽しんでみたいです」



良性脳腫瘍の治療

最適な治療選択と手術実現のために

脳腫瘍の45%を占める良性脳腫瘍は、髄膜腫、神経鞘腫、下垂体腺腫などがあり、腫瘍の部位によって、さまざまな神経症状が起きてまいります。難易度の高い脳外科手術となることもあり、手術に精通した医師が、術中に腫瘍や周辺組織の正確な位置情報の把握に有効なナビゲーションシステムや、神経の機能を確認められる神経モニタリングなどの最新の設備を用いながら、術後の合併症を残さないよう細心の注意を払い手術に臨みます。手術、放射線治療、経過観察など、あらゆる可能性を考慮し、画一的な治療ではなく、それぞれの患者さんに適したテーラーメイドの治療のご提案と、ご家族に信頼される丁寧な対応を行ってまいりますので、ぜひ安心して当院におまかせください。

下垂体腺腫の治療

診療各科と連携した診断と治療

下垂体腺腫は、ホルモンを腫瘍から産生する機能性下垂体腺腫と、ホルモンを腫瘍から産生しない非機能性下垂体腺腫の大きく2つに分類されます。下垂体腺腫は、ホルモンの過剰分泌や低下に関連した症状のほか、腫瘍の周囲構造物への圧迫症状などの症候があります。下垂体卒中などを起こすと、急性副腎不全となって、ステロイド補充をしなければ致死的な状況に陥るケースもあり、十分な注意が必要となります。そのため当院では、下垂体腺腫の診断にあたり内分泌代謝内科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科が協力し、適格な診断を行っております。最近では、ほとんどの症例で、経鼻内視鏡手術を耳鼻咽喉・頭頸部外科と合同で行っていますが、ごく稀に開頭手術やガンマナイフを含む放射線治療、薬物療法を使い分けながら、治療に取り組んでいます。

DOKKYO MEDICAL SCOPE

— 獨協の今を識る — vol.3

新時代に向けた脳腫瘍治療を目指して



 獨協医科大学病院
Dokkyo Medical University Hospital

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880
TEL:0282-86-1111(代表)

獨協医科大学病院脳神経外科
脳神経外科外来 TEL:0282-87-2205



獨協医科大学 創立50周年記念事業



50周年記念事業に関するお問い合わせはこちらまで
獨協医科大学創立50周年記念事業推進室
企画広報部内
TEL:0282-87-2107





脳腫瘍治療総論 / 脳腫瘍の内視鏡手術

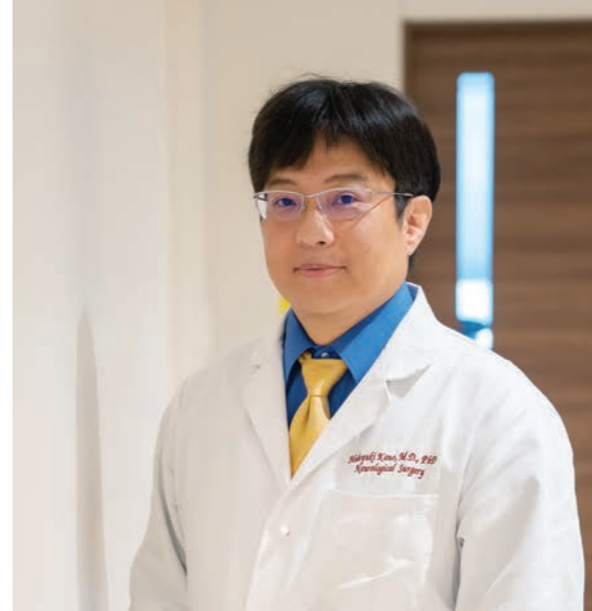
日本トップレベルの医師が集結

当院では、脳神経外科疾患の患者さんに24時間365日体制で対応し、すべての手術を脳神経外科学会専門医が執刀しています。また、脳神経外科の各専門領域において高いレベルの診療・研究が行われているほか、定位放射線治療装置であるガンマナイフを保有する、日本で数少ない大学病院の一つです。さらに特殊なMRIやPETなどの検査を併用し、最新鋭の手術支援装置を駆使した手術と、遺伝子解析結果に基づいた集学的治療を行っています。多くの種類がある脳腫瘍のなかで主となる悪性脳腫瘍、良性脳腫瘍、下垂体腺腫の治療に対して、開頭手術、内視鏡手術、ガンマナイフを含む放射線治療、薬物療法の4つの治療法から、患者さんにとって最適な治療をご提案いたします。脳腫瘍治療で私が赴任後に特に強化したのは、下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍に対する内視鏡手術の分野です。下垂体腺腫や頭蓋底腫瘍には、鼻からアプローチする経鼻内視鏡手術をお薦めしています。この手術は高度な技術を要しますが、開頭しないで済むため患者さんの負担が少ないという大きな利点があります。また、当院では経験豊富な耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医師と合同チームで手術をしますので、鼻の機能を損なわずに、この手術を行えます。もちろん、必要な場合は開頭手術も選択いたします。また、内分泌代謝内科や小児科、整形外科など各診療科とも連携し、手術のみならず、術後の専門的な薬物療法にも対応できます。新時代に対応した専門的治療と地域医療の両面から、患者さんやご家族をお守りできることをこれからも目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



脳神経外科 主任教授
阿久津 博義

「経鼻内視鏡手術を中心とした、低侵襲頭蓋底外科手術を得意としています。1000件以上の脳腫瘍手術経験がありますので、治療法の選択など安心してご相談ください。普段の休みは愛犬の散歩や筋トレなどで気分転換をしていますが、年に一度ダイビング好きの先生と集まり、勉強会を行うことも楽しみの一つです」



脳神経外科 准教授
叶 秀幸

「15年間ピッツバーグ大学にて、多数の論文執筆、査読、及び国際共同研究の主導など、ガンマナイフ治療の臨床・研究に励んできました。今後は当院がガンマナイフ治療の世界の中心地となるよう、尽力いたします。帰国してまもないですが100円ショップ巡りが楽しくてたまりません」



ガンマナイフ治療

病巣に集中照射する放射線治療

当院では定位放射線治療として、ガンマナイフによる治療を行っています。ガンマナイフとは、放射線の一種であるガンマ線が、脳内の病巣に一点集中するように作られた定位放射線治療装置で、転移性脳腫瘍、良性脳腫瘍（神経鞘腫、髄膜腫、下垂体腺腫など）、脳動静脈奇形、三叉神経痛などの治療に使用されます。開頭手術を行うことなく、高精度で病変周囲の健康な細胞や重要な組織を避けながら治療できるうえ、1本1本のビームの線量が低いため正常脳へのダメージが極めて少ないことが特徴です。転移性脳腫瘍において、ガンマナイフ治療の局所制御率は高く（83～94%※）、個数の制限もありません（たとえ20個以上でもしばしば治療可能です）。治療時間は病変の種類、数、大きさによって異なりますが、30分から数時間程度。無音で痛みもありません。頭部に局所麻酔を行い、フレームを固定しビームを照射します。当日か翌日には通常の生活が可能です。最先端の医療システムを導入し、患者さんの治療にあたるのは当然のことですが、今後、当院発の世界標準になり得るガンマナイフ治療の治療指針を作り出していけたらと考えております。新しいステージに向けて、地域の先生方と共に歩んでいけることを心から願っております。

※出典元：Niranjan A, Lunsford LD, Kano H (Editors). Leksell Radiosurgery. Progress in Neurological Surgery. Basel, Karger, vol. 34. 2019

悪性脳腫瘍の集学的治療

大学病院ならではのチーム医療

悪性脳腫瘍は大きく分類すると、原発性と転移性の2つがあります。原発性脳腫瘍は脳から発生するもので、その代表となるのがグリオーマ（神経膠腫）、転移性脳腫瘍は肺がんや乳がんなどからの転移によるものになります。これらの悪性脳腫瘍の要となるのが、診断から治療までのスピードです。悪性脳腫瘍は、病気を疑った時点で速やかにより詳しい検査を行い、一刻も早く治療を目指す必要があります。最近の10年間で治療も大きく進歩し、より正確な予後判定や治療選択ができる遺伝子診断、新たな抗がん剤の導入、分子標的薬の登場など、治療方法の選択や治療を行うタイミングが複雑化し、高度で専門的な知識が必要になってきました。しかし大学病院である当院には、高い専門性と知識、経験をもつ脳腫瘍治療チームが在籍しております。麻酔科医、病理医、放射線科医、リハビリテーション医、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士など多くの専門家が、正確な病理診断、合併症の対応、社会復帰へのリハビリテーションに対応いたします。治療においてさまざまな選択肢がある中で、常に患者さんに寄り添う存在でありたいと思っております。いつでも私たちにご相談ください。



脳神経外科 准教授
宇塚 岳夫

「悪性脳腫瘍は手術治療・放射線治療・化学療法があります。当科は悪性脳腫瘍を総合的に診察し治療できる体制が整っておりますので、早期にご紹介いただくと幸いです。忙しい毎日のなか、唯一の趣味が革製品。手入れに没頭するあまり、気付くと数時間経っていたこともあります」

